

令和3年度

試験名:学群編入学試験

【社会・国際学群社会学類社会学主専攻】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
専門科目	<p>アメリカにおける専門家と一般人のギャップ、専門知への軽視が増大している傾向を批判的に論じた、トム・ニコルズ『専門知は、もういらぬのか—無知礼賛と民主主義』（高里ひろ訳）から抜粋した文章を読ませ、以下の2問について具体的な事例を挙げながら論じることを求めた。具体的な事例としては、COVID-19、原発事故、地球温暖化などさまざまな事例が想定できるため、標準的な回答例は特にないが、下記のような観点から評価した。</p> <p>問1 情報に対して受動的だったり、信じたい情報のみを探そうとしたりする人々の姿勢について書かれた箇所を参照して、社会学的な分析・調査計画と解釈・解決策のあり方を問うた本問では、回答者それぞれが設定した具体的な事例において、事実と概ね反することがない形で論理的に一貫し、かつ適切な社会学理論に言及されたものであるかどうかを評価した。</p> <p>問2 専門家はあくまで選択肢を提示するだけであり、決定するのは有権者の仕事だ、という趣旨の箇所から、筆者の考える専門家と市民・政治の関係性について論じさせた本問では、回答者それぞれが設定した事例において、民主政治における専門家のアドバイザーとしての役割が具体的に説明され、意思決定支援というリスクコミュニケーションの要諦が十分に理解されているかどうかを評価した。</p>
外国語	<p>薄型の入門書である Oxford UP のシリーズにある『社会学』から出題を行った。社会学を全く知らない学生に対し、他の科学との比較や様々な比喩を駆使しながら説明するような入門書である。今回の出題では「社会学の定義」に関する部分を使った。</p> <p>問1 基礎的な力として、社会学で使用されている基礎的な語彙を日本語の定訳に直せるかを尋ねた。</p> <p>問2 社会学と経済学における基礎的な仮定を対比させるという文意・文章の運びが把握できているかを尋ねた。</p> <p>問3 本能と人間の行う行動についての文中の説明に対し、自分で別の例を挙げることが出来るかを問うことで、文意がとれているかを尋ねた。</p> <p>問4 生物学との対比がなされている意味を尋ねることで社会学の特徴を述べる文意がとれているかを尋ねた。</p>

問 5

私たちの日常的な習慣の持つ社会的な機能を説明する決定的な部分の下線部全訳を問うことで、文の構造と意味が把握できているかを尋ねた。

問 6

問 2～5 のまとめとして、適切に全文が要約できるかを尋ねた。